TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

王が来られたII だが、お前たちは応じようとしなかった
マタイによる福音書23:29～39

2023年4月15日& 16日
余沢 武 牧師

初めに

こんにちは。先週はキリストの復活を祝う素晴らしい時が持てたことを主に感謝します。来週、名誉主任牧師のデニス牧師とジュディさんがいらっしゃいます。デニス牧師は来週の全ての礼拝で説教をします。お見逃しなく。

今週は日曜日の 11 時の礼拝後に「緊急時の避難訓練」を行います。参考までに、緊急時には 1 階の前 4 列目までの方々はステージ横の 2 カ所の扉から退出します。その他の方々は後方の 2 カ所の扉から退出します。そして 2 階のバルコニー席にいる方々はその側方にある 2 カ所の扉から退出します。

日曜学校の子供たちのご両親は中庭まで子供達を迎えにきてください。ナーサリーの子供たちのご両親はジョイ・カフェまで迎えにきてください。

今日はマタイの学びに戻ります。私たちはこれまで、主に以下の2つの理由から律法学者とファリサイ派の人々に神の裁きが下ることを学びました。

① 「誓いをたてる」とき、彼らは神の言葉をはぐらかし、罪悪感なく神の言葉に完全に従わなくてもよいような抜け道を作りました。そのために、神の赦しと助けに依り頼むことの必要性に気付くことができませんでした。
② 「什一献金」において、神の言葉に彼らは余計なルールを追加しました。自分自身を誇り、追加したルールを守らない他者に対して批判的になりました。

それによって、彼らは神の命令の目的、すなわち－神を畏れ、私たちが完全に神を信頼し、神の御言葉に従い、神に依り頼むような心で神を崇め、神と隣人を愛すること－を見過ごしていました。

今日は律法学者とファリサイ派の人々に対する 7 つ目の災いについてみていきたいと思います。まず祈りましょう。

I. だが、お前たちは応じようとしなかった

(1)罪を満たす

マタイによる福音書 23:29－32 を開きましょう。
律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたがた偽善者に災いあれ。あなたがたは預言者の墓を建てたり、正しい人の記念碑を飾ったりしている。そして、『もし先祖の時代に生きていたなら、預言者の血を流す側には付かなかったであろう』などと言う。こうして、自分が預言者を殺した者たちの子孫だと、自ら証明している。あなたがたも、先祖たちが犯した罪の升目を満たすがよい。

イエスの時代には、律法学者とファリサイ派の人々は旧約聖書の預言者や先祖によって殺された正しい人々のために墓や祈念碑を建てたり、墓を飾ったりしていました。それは、彼らが預言者や旧約聖書の正しい人々と同等の信仰があることをみせつけるためでした。

しかしイエスは彼らにこう言いました。「**あなたがたも、先祖たちが犯した罪の升目を満たすがよい。**」言い換えれば、「あなたたちは確かに先祖たちの後継者である。だから彼らが始めた罪を完成させなさい。」ということです。

「満たす」という表現は聖書では「罪」、「神の怒り」と「神の裁き」に関連して用いられていることが多いです。それはコップが徐々に罪で満たされていく様子を表しています。コップが完全に満たされたとき、神の「怒り」と「裁き」が罪人に注がれるのです。

アメリカのイエローストーン国立公園にある「オールド・フェイスフル」という有名な間欠泉のことを思い出します。ここでは 60～90 分置きに必ず地下から熱水が吹き出すのです。

地下水が火山熱によって温められると、間欠泉に蒸気泡が送られ、中の水が熱せられることを科学者たちは発見しました。蒸気泡が水を熱し続けると、やがて沸点に達し、水を放出させるのです。

同じように、私たちの罪は神の怒りを熱し続けます。神が忍耐強く、怒るに遅くても、いずれ沸点に達するときが来ます。神の怒りと裁きが注がれます

旧約聖書で、神がアブラハムに約束の地を与えることを約束したとき、神はアブラハムの子孫たちはまだ約束の地を受け取ることはないと伝えました。**創世記15:16**で神は**「アモリ人の悪が極みに達していないからである。」**と言っています。アモリ人の罪はまだ神の怒りを沸点まで至らしめていなかったため、裁きはまだ下されなかったのです。

これが、イエスが律法学者とファリサイ派の人々に言っていたことです。彼らの先祖は数え切れないほどの預言者や正しい人々を殺しました。しかし神のイスラエルに対する怒りはまだ沸点に達していませんでした。

彼らが「神の子」と「弟子たち」を殺せば、怒りは沸点に達し、神の裁きが下されます。

(2)イスラエルに対する告発

33―36 節でイエスはこう言います。**蛇よ、毒蛇の子らよ、どうしてあなたがたはゲヘナの裁きを免れることができようか。だから、私は預言者、知者、学者をあなたがたに遣わすが、あなたがたはそのうちのある者を殺し、十字架につけ、ある者を会堂で鞭打ち、町から町へと迫害して行くであろう。こうして、正しい人アベルの血から、あなたがたが聖所と祭壇の間で殺したバラキアの子ゼカルヤの血に至るまで、地上に流された正しい人の血がことごとく、あなたがたに降りかかってくる。よく言っておく。これらの報いはみな、今の時代に降りかかってくる。」**

- イエスは「**預言者、知者、学者**」、つまり自分の弟子たちを遣わすと言いました。
- そして律法学者やファリサイ派の人々は「**殺し、十字架につけ、ある者を会堂で鞭打ち、町から町へと迫害して行く**」のです。イエスは未来のことを伝えているのです。このことは使徒行伝で見ることができます。

その時に沸点に達します。正しい人アベルの血から、ゼカルヤの血に至るまで、地上に流された正しい人の血がことごとく、彼らに降りかかってくるのです。

アベルはアダムとエバの二番目の息子です。アベルは最初の正しい人でした。しかし兄のカインはアベルに嫉妬し、旧約聖書の最初の書である創世記の 4 章でアベルを殺害しました。

バラキアの子ゼカルヤは、旧約聖書の最後の方の書の一つを書いた預言者です。イエスは、旧約聖書の最初から最後に至るまでの全ての「正しい人」の殺人について、イエスとその弟子たちが殺された後に、律法学者やファリサイ派の人々の上にことごとく罰が下されると言っています。

(3)だが、お前たちは応じようとしなかった

37－39 節:「エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めんどりが雛を羽の下に集めるように、私はお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。見よ、お前たちの家は見捨てられて荒れ果てる。言っておくが、お前たちは、『主の名によって来られる方に、祝福があるように』と言うまで、今から後、決して私を見ることはない。」

- イエスは、「**めんどりが雛を羽の下に集めるように、私は**(ここではイエスが神として話していることに注目してください)**お前の子らを何度集めようとしたことか。**」と言っています。
- でも問題は、「**お前たちは応じようとしなかった。**」ということです。

イエスによると、神の民であるイスラエルは、いとも簡単に敵に騙されてしまう、「無力な雛」のようでした。神は面倒を見たかったのに、彼らは応じようとしませんでした。では、具体的に何に応じようとしなかったのでしょうか。イエスが非難した 2 つの問題点を思い出してください。

① 彼らは謙虚に神の「赦し」と「助け」に頼る必要があることに気付きませんでした。
② 完全に神を信頼し、神の言葉に従い、神に依り頼むような心で神を崇め、神と隣人を愛することができませんでした。

律法学者とファリサイ派の人々が定期的に礼拝に参加し、什一献金を捧げ、神の言葉に従おうとし、宣教師として仕え、道徳的に正しい生活を送っていたにも関わらず、次のことを行おうとしなかったことに気付いてください。
へりくだって神の赦しと助けに頼る。
神と隣人を愛するために完全に神を信頼し、神の言葉に従い、神に依り頼む。

私たちもこのことに気をつけなければなりません。私たちも礼拝に参加し、什一献金を捧げ、神の言葉に従おうとし、海外宣教で仕え、道徳的に正しい生活を送っているかもしれません。その上、慈善活動や聖書の知識、クワイエットタイム、ミニストリー、アウトリーチや礼拝に尽力しているかもしれません。

それにも関わらず…へりくだって神の赦しと助けに依り頼むことができず、自分で充分できていると考えることがあります。完全に神を信頼し、神と隣人を愛するために、神の言葉に従い、神に依り頼むことができないことがあります。 そして自分の能力を信頼し、人生の中で神を必要としなくなり、神を無視して悲しませることがあります。

これこそが、クリスチャンの成長にとっての鍵であると私は信じています。私はクリスチャンの弟子訓練についていつも困惑してきました。医師、教師たちを訓練するとき、大抵最も良い学校で訓練を受けた人たちが最も良い役割を果たします。クリスチャンの成長においてはそうとは限りません。

多くの聖書勉強会に参加し、たくさんの聖書の知識を得てもなお、クリスチャンとして成長しない人もいます。一方で、新しいクリスチャンで、聖書の勉強会に少ししか参加していなくてもクリスチャンとして成長し続ける人もいます。

何故でしょうか。それはクリスチャンの成熟度は聖書の知識の量やクリスチャン的な行いの量によって決まるのではないからです。私たちの内側に働く神の力の大きさと、私たちの人生をどれだけ神が支配しているかによって決まります。

これこそがイエスが強調していることです。霊的成長はどれほどへりくだって、私たちが行う全てのことについて神の赦しと助けに依り頼むことができるか―すなわち悔い改めて祈ること意識的に、完全に神を信頼し、神の言葉に従い、神に依り頼み、神と隣人を愛することを望むことができるか
にかかっているのです。

この謙遜さと意識がなければ、どれだけ聖書の知識があっても、何の意味もありません。聖書の学びは、私たちに謙遜さと意識があって初めて役に立つのです。

しかし律法学者とファリサイ派の人々にはこれらは全くありませんでした。神がこれを与えようとしたとき、彼らはそれを拒否しました。神に依り頼む必要性に気付くことなく、自分たちの人生を神に明け渡すことも望みませんでした。彼らは神を必要としなかったのです。 ですから神は彼らを永遠に神のいない場所で過ごさせることにしたのです。

私たちはどうでしょうか。私たちが自分の人生を他者に説明するとき、私たちの人生が全て次のようなことを表していると言えるでしょうか。

謙虚にへりくだって、イエスを通して神の赦しと助けに依り頼む、意識的に神を完全に信頼し、神の言葉に従い、神に依り頼むために神の助けを受けて、神と隣人を愛する。

もしそうでなければ、私たちも律法学者とファリサイ派の人々と同じように、神が与えようとしている人生―神の力と愛とともに生きること―を逃しているかもしれません。クリスチャンであるにも関わらず、この経験をしていないことはとても残念です。

これこそがイエスが与えてくれているものです。
イエスを自分の主であり救い主として受け入れることによってのみ、私たちは聖霊を通して、神の赦しと助けに依り頼むことができます。―もしまだの方はぜひ今日おこなってください。
意識的に聖霊の力を求めることによってのみ、またそれは通常クワイエットタイムと祈りを通して行いますが、私たちは完全に神を信頼し、神の言葉に従い、神に依り頼むことを学び、神と隣人を愛することができます。継続しておこなうようにしましょう。
私たちは皆このように告白するべきです:「『主の名によって来られる方に、祝福があるように』

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg1623jp

★クラス 301
賜物発見クラス
5 月 13 日（土）13:30～17:30
参加条件: クラス 101/201 を修了していること

★クラス101
教会員になるためには
6 月24日（土）13:30～17:30
参加条件: どなたでも

https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

奉仕者募集中！

1．日本語字幕オペレーター
月 1～各礼拝の時間の日本語字幕のページを矢印キーを押してめくる作業。コンピュータースキルはいりません。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

2．日本語訳字幕作成
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。Mac でプロプレゼンターというソフトで作成しますが、1，2 回のトレーニングで簡単に覚えられます。作成後、土曜日 19 時の礼拝の日本語訳字幕オペレーターもお願いしています。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

3．週末礼拝メッセージ翻訳
1 か月半に 1 度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語のメッセージ原稿を日本語に翻訳します。
スキル：英語と日本語が堪能な方

*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org